

豊かな感性を育てる体験活動

福岡県福岡市立玄界中学校

1 取組のねらいや内容

(1) 取組のねらい

本校は、素直で気持ちの優しい生徒たちばかりである。学習、部活動、学校行事と何ごととも熱心で、真剣に学ぶことができている。しかし、離島であるが故に、他校の生徒に比べ、多くの情報に接したり、人々と触れ合う機会に恵まれているとはいえない。その結果、控え目になりがちで、自分の意見や意志を的確に伝えることがあまり得意ではない。生徒の自己表現力を高めていくことが課題であると職員間で捉えている。その課題解決のためには、生徒の積極的な発言を促すように、授業形態を工夫することも必要である。さらに、「できる限り多くの体験活動を行ない、様々な人々や知識・情報に接したり、自然に触れあったり、決して書物では実感できない『本物』に触れることも有効な手だてである」と、全職員が共通理解し、実践の積み重ねを目指して以下のようなテ・マと活動のねらいを設定した。

テ・マ
豊かな感性を育てる体験活動を目指して ～島内外の人々との心の交流を通して～
活動のねらい
主体的にボランティア活動に取り組む態度を育てる。
郷土を大切に作る心を育む。
豊かに表現する力を培う。
生徒間の心の交流を図る。

(2) 本年度の主な取り組み

月	内 容
5月	「自然教室・ふれあい学級」
6月	国際協力事業団招聘「ミャンマ - 教育視察団」との国際交流 ロボカップ2002世界大会への出場
7月	第1回B G F C [玄界中学校少年消防クラブ]活動
9月	玄界島島内清掃 第2回B G F C [玄界中学校少年消防クラブ]活動
10月	甘木市での「豊かな体験活動」 「木馬作り」(~11月)
1月	第3回B G F C [玄界中学校少年消防クラブ]活動
2月	「教室から世界をのぞこう」プログラム 総務省「e!プロジェクト」

2 教育課程上の位置付け

校務分掌組織として「豊かな体験活動推進委員会」を設置し総合的な学習の時間等において体験活動を実施している。

- ・「自然教室・ふれあい学級」
- ・ミャンマ - 教育施設団との国際交流
- ・ロボカップ2002世界大会
- ・B G F C [玄界中学校少年消防クラブ]活動
- ・玄界島島内清掃

- ・甘木市での「豊かな体験活動」
- ・「木馬作り」
- ・「教室から世界をのぞこう」プログラム
- ・総務省「e！プロジェクト」

3 活動の概要（実施にあたり苦労した点や工夫した点）

本年度の体験活動を（B G F C [玄界島少年消防クラブ] - 以下B G F Cと略す - ）は3つの取組を一括して）振り返ってみる。

(1) 「自然教室・ふれあい学級」

3泊4日で「佐賀県波戸岬少年自然の家」を中心に実施した。九州電力玄海原子力発電所及び玄海エネルギーパークを見学し、その後、名護屋城跡及び佐賀県立名護屋城博物館を訪れ、同館職員から日韓交流の歴史について説明をしてもらった。

他には「茶道教室」「野外炊飯」「カッター活動」「ウォークラリー」「焼き杉体験」などの活動を実施した。社会科見学的な内容や日本の伝統文化である茶道教室を含めて、玄界島では体験できない多様な活動を実施できた。

(2) ミャンマ - 教育視察団との国際交流

ミャンマ - から来日された20名の教師が玄界島を訪れた。3班に分かれて授業参観をしていただき、参観後に、玄界小学校と合同で歓迎交流会を行なった。琴や三味線の演奏や踊り、クイズなどでミャンマーの方と直接身近に触れあいながら交流をすすめることができた。交流会後には、地域代表の方々も加わり、歓迎昼食会を催した。

言葉の問題や文化の相違など不安を感じながら準備を行なったが、実際に接してみると礼儀正しくて、謙虚な方々ばかりで、心を通い合わせる交流ができた。

生徒は一度に20名という多数の方々とは交流して国際交流の楽しさを実感した。英語で会話するなど、日ごろの学習の成果を発揮し、自信へとつながっていった。

(3) ロボカップ2002世界大会出場

ロボットによるサッカーの世界大会が、福岡市と韓国釜山市で共同開催された。その大会に本校チームが出場し、予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントでは、ベスト8まで進出することができた。出場選手以外の生徒は、福岡ドームに応援に行き、世界大会の雰囲気はふれ、全校生徒が一体となって応援することができた。

(4) B G F C 活動

各学期に一回ずつの体験活動を実施している。1学期は、福岡市防災センター（以下防災センターと略す）の職員の方々を講師として、消火栓及びホースの取り扱いについて実体験をした。2学期は防災センターを訪問し、火災の怖さを学び、地震や強風などの災害体験をした。3学期には、応急手当及び三角巾の使用方法についての講習と実技指導を受けた。年間を通して、火災予防の知識習得や消火訓練だけにとどまらず、災害一般についても幅広く学び、緊急時の応急手当等について学ぶことができた。

(5) 玄界島島内清掃

防波堤内のゴミの回収を目標にして、2人1組となり不法投棄されたゴミを丹念に集めた結果、ゴミ袋30枚相当のゴミを回収した。ゴミの多さに改めて驚くとともに、9月の残暑厳しい中で、汗を流しながらのボランティア活動を通して、島の環境美化に役立てたという満足感を味わうことができた。

(6) 甘木市での「豊かな体験活動」

1泊2日の日程で1年生4名（男子3名、女子1名）で実施した。すでに5月に「自然教室・ふれあい学級」を実施していたので、内容が重複しないよう工夫した。活動の中心場所である甘木市の佐田地区は山間部にあり、山の自然が多く残る環境にある。佐

田地区で山の自然に触れるのは当然だが、単に自然相手の学習活動だけでは何か物足りなさを感じたので、自然体験活動以外の内容も以下のように実施した。

- ・「キリンコスモス花園」見学
- ・「あまぎ水の文化村」での体験活動
- ・佐田川での釣り
- ・「佐田源流太鼓」の体験学習
- ・鳥屋山登山
- ・梨農園での梨狩り
- ・秋月城址見学

(7) 木馬づくり

技術・家庭科の選択授業の取組として、島民に役立つものを木工で製作することになり、約2ヶ月間かけて、苦心しながらも、木馬を2台作り、玄界島保育園に寄贈した。

(8) 「教室から世界をのぞこう」プログラム

本校は韓国釜山市の新谷中学校と姉妹校の関係にある。2年生が修学旅行で新谷中を訪れて、国際交流を行なうなど、継続的に韓国への理解を深めるための学習活動を行っている。本年度も韓国人講師を招いて同プログラムを実施した。

各学年で学習段階に差があり、全学年が一斉に同一プログラムを学ぶことに工夫を要したが、韓国の衣食住に対する理解を深めたり、民族音楽の「アリラン」を合唱するなどして、ゲスト・ティ・チャ・から多くのことを学んだ。

(9) 総務省「e！プロジェクト」

国際理解教育と情報教育を融合して、次世代高速インターネット技術を活用し、韓国釜山大学の大学院生と、福岡・釜山間の海底光ケーブルを介して、衣食住をテーマに交流を行なった。

4 活動の評価方法

過年度においても様々な体験活動を実施してきたが、本年度はこうした体験活動を「豊かな体験活動」として位置づけている。それぞれの取組については、教育課程上の位置づけに従い、生徒の評価を行なっている。総合的な学習の時間として、位置づけた活動については以下の7つの評価の観点を設定した。

- ・学び方・ものの考え方
- ・課題設定能力
- ・表現・発信する力
- ・自己の在り方、生き方を考える態度
- ・情報収集・活用能力
- ・コミュニケーション能力
- ・地域環境を大切にす態度

5 学校支援委員会の組織・運営

組織に関しては、以下の10名で構成している。

- ・学校長
- ・教頭
- ・教務主任
- ・町内会長
- ・公民館長
- ・老人会長
- ・「心の教室相談員」
- ・PTA会長
- ・漁協会長
- ・漁協婦人部長

年間で3回の支援委員会を開催している。計画の説明を行なうとともに、実施に関する地域の協力体制づくりを会員の方々に要請している。

6 推進地域としての取組

福岡市は、小学校区ごとに公民館がある、伝統的な地域の行事が多いなど、地域の結びつきを大切にしてきた都市であり、古くからアジアとの交流拠点都市として栄えてきた。しかし、近年は学校において、いじめ、不登校の増加傾向や学級の荒れが見られるなど学校教育をとりまく様々な問題が顕在化している。

福岡市では上記のような児童生徒の状況を踏まえ、平成12年度に福岡市教育改革プログラムを策定し、自然教室での自然体験活動やアジアマンス等における諸外国との交流、福祉施設における福祉体験活動や公民館・地域の人材を活用し、各地域の特性を生かしながらの様々な体験活動に取り組み、心の教育の充実を図っている。

豊かな体験活動推進事業の実施に当たっては推進地域を福岡市全域とし、小学校7校、中学校2校、高等学校1校を推進校に選定し、様々な体験活動に取り組めるようにした。本校もこの推進校の1校として山村での自然体験活動やボランティア体験活動、交流体験活動等様々な体験活動に取り組んでいる。

7 活動の成果

生徒は、玄界島保育園、玄界小学校と全く同一の学習環境を経て、中学校に入学している。大人が想像する以上に、生徒たちは、卒園した玄界島保育園や卒業した玄界小学校への愛着を持っている。祖父母と同居している生徒も多い。核家族化の影響をあまり受けずに、身近に年長者の存在を感じながら生活しており、島の先輩として、年長者を敬う気持ちが強い。このような気持ちが老人の方々や園児たちに喜ばれるものを制作しようとする意欲へとつながった。生徒たちは時間をかけ、苦労しながらもひたむきに木工に取り組み、一昨年度は、お年寄りにも安心して座れるベンチを製作し、「老人憩いの家」に寄贈した。昨年度は丸太で作ったブランコを製作し、玄界島保育園へ寄贈した。昨年移転し新築されたばかりの保育園は遊具施設が少ないと聞き、保育園児たちが安全に遊べる室内遊具はないかと考えて、今年度は、木馬を2台製作し寄贈した。木馬は保育園児たちのことを考えて、木ネジ部分が表に出て怪我をしないように加工し、塗装もアトピ - の園児にも安全なように天然素材である蜜蜂の巣からできた蜜蝋を使って塗装を施した。そんな思いが通じたのか、幸いにも福岡市中学校技術・家庭科作品展では、最優秀賞を受賞し、福岡県の子作品展でも入選した。

B G F C 活動では、島民の方々の「自分たちの島は自分たちで守るんだ。」という強い防災意識が生徒たちへも伝わった。島内には消防署や消防自動車は存在しない。さらに男性が漁に出かけた時に防災を担う婦人消防隊の活動を身近に見聞きしているため、生徒は自分たちの消防クラブの必要性をはっきりと認識して活動している。

生徒会の清掃美化委員の企画により玄界島島内清掃を実施した。島外から釣りを目的に訪れる人が後をたたず、残念ながら一部の心無い人がゴミを放置したまま帰っている。島の婦人部や老人会の方々が組織的に清掃を行い、奉仕活動が地域に根づいている。その活動に心動かされ、生徒会の清掃美化委員会の呼びかけにより、全校生徒と職員で多量のゴミを回収した。地域活動を手本としてボランティアとして清掃に励むことにより、環境美化に対する意識も向上している。

「私が梨狩りに行って、農家の人たちがイノシシなどが梨園に入ってこないように工夫されているのに驚きました。それに梨が小さい時から袋詰めしてるのを知りびっくりしました。手間をかけていくといいものができるということがわかりました。これから、どんなことにも手間をかけて、ていねいにしていきたいと思いました。」これは、甘木市での「豊かな体験活動」を終えての、1年生の感想文の一部である。このように学んだことを自分たちの頭の中で整理して、日常生活とつなげようとする姿勢が随分見られるようになってきた。さらに、島内清掃や木馬づくり等を通じて、郷土を大切に、貢献する心を育むことができつつある。体験活動を通して、生徒間の心のわだかまりを解きほぐし、学校生活でも助け合う姿勢が見られるようになってきたことが最大の成果である。

8 今後の課題

教室を離れて、様々な学習の場を設定してきた。上記のような成果が出てきたが、本校生徒の課題である「生徒の自己表現力を高めること」については、向上してきている面も多々見られるようになってきたが、学校全体としては、さらに積極的に自己を表現する力を培うことが来年度の課題であると捉えている。